

公立大学法人金沢美術工芸大学
平成30年度業務実績報告書
論点整理表


金沢市公立大学法人評価委員会

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標

ア 学士課程教育にあつては、学部の教育目標及び各科・専攻の教育方針に基づき、教養教育と専門教育を行い、学位授与方針に定める汎用的な教養と専門的な造形力を修めた職業人を育成するとともに、学部を本学の教育拠点と位置づける。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>(7) 学士課程教育を、本学の教育拠点として位置づけ、学部の教育目標及び各科・専攻の教育方針に基づき、これに相応しい教育を実践する。</p> <div data-bbox="69 788 779 979" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【質問・意見等】 「S評価の割合が適切な範囲内」とあるが、適切な範囲をどのように定義しているか。</p>  </div> <div data-bbox="69 1018 779 1437" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【回答】 新しく創設したs評価については、年度末の教務委員会で、受講者数に対する割合を定めた相対評価ではなく絶対評価とすることを確認し、その評価の状況を全専攻の教務委員に開示して、議論することにより、s評価の割合が適切な範囲内に収まっていることを検証し、31年度以降の運用方法について意見交換した。このように、一般的な相対評価における割合の定義ではなく、適切な範囲は教務委員の議論・検証により判断している。</p> </div>	<p>(7) 大学及び学部の目標、教育目標、3つのポリシー等の連関性について不断に検証する。</p>	<p>○本学では、「芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材」（大学憲章）を育成することを社会から負託された使命であると考え、「学位授与方針(DP)」「教育課程編成方針(CP)」「学生の受入方針(AP)」を定め、それぞれの関係性について複数の委員会で確認、検討している。具体的には、DPの達成のために、全学的な組織である教務委員会でCPについて、同じく全学的な組織である入試委員会でAPについて協議する体制が構築されており、各委員会において、3つのポリシーの連関性や整合性を全学レベル及び学部レベルでPDCAサイクルが適切に機能しているかを検証した。</p> <p>○また、DPを達成することを目的に、29年度の教務委員会で導入を決定した、新たな単位認定の評価基準（29年度以前の入学者は単位認定の最低到達点を50点としていたが、30年度入学者より最低到達点を60点とし、併せて、成績評価は特に秀でた100点から90点の場合、成績表に「S」の表記をする）を30年度から実施した。新しく創設したS評価については、年度末の同委員会で、受講者数に対する割合を定めた相対評価ではなく絶対評価とすることを確認し、その評価の状況を全専攻の教務委員に開示して、議論することにより、S評価の割合が適切な範囲内に収まっていることを検証し、31年度以降の運用方法について意見交換した。</p> <p>○更に、DPを達成するため、APについても入試委員会において、一般選抜試験ならびに特別選抜試験（推薦入試）を検証し、ともにAPに基づいた選抜内容・方法であることを確認するなど、継続して検証を行った。</p>	<p>Ⅲ</p>		<p>資料1-1 資料1-2 資料1-3 資料1-4 資料1-5</p>

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	ア 学士課程教育にあつては、学部の教育目標及び各科・専攻の教育方針に基づき、教養教育と専門教育を行い、学位授与方針に定める汎用的な教養と専門的な造形力を修めた職業人を育成するとともに、学部を本学の教育拠点と位置づける。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>(イ) 教養科目においては汎用的能力を培う教育を実践し、基礎科目においては多様な表現力を養う教育を実践する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【質問・意見等】 何故評価がIVなのかを説明してほしい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【回答】 国が掲げるキャリア教育の推進や実務経験者による実社会と連携した教養教育の強化に沿って「キャリアデザイン」「金沢の文化行政」を31年度より新設することを決定した。また、領域の横断化を実現し、学部・大学院を通した汎用的能力の滋養の強化に向けて、新キャンパスにおける施設面においても大規模な共通工房を整備し、その連関性や配置などの在り方を検討するため、全専攻の教員で構成する「新キャンパス配置検討ワーキンググループ」を31年2月に立ち上げたことからIV評価とさせていただきます。</p> </div>	<p>(イ) 学部教育の目標及び各科・各専攻の教育方針に基づき、学部教育の在り方を検討し、新キャンパス移転に向けた計画の策定に着手する。</p>	<p>○DPに掲げる「2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的技術を修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった」という学習成果の達成のため、教養科目として「キャリアデザイン」「金沢の文化行政」を31年度より新設することを決定した。</p> <p>○「キャリアデザイン」は実務経験のある教員による、学生が将来にわたって自己の専門的技術を社会の中でどのように用いていくのかを考えさせるものであり、学部1年生を対象に、後期に開講することとした。また「金沢の文化行政」は金沢市の協力を得て開講される科目であり、学生が深く地域と関わるような知識を与えるために学部1年を対象に前期に設定した。</p> <p>○CPに掲げる「2. 専門教育科目の基礎科目においては、自専攻・科以外の分野を選択履修し、さまざまな技法や素材に触れ、多様なメディアを用いた表現や複合的な表現が可能となる科目編成とする」という事項を踏まえた教育課程の更なる強化のため、「新キャンパス配置検討ワーキンググループ」を31年2月に立ち上げ、複数の専攻で共有する「共通工房」の在り方の検討を開始した。</p>	IV		<p>資料1-2 資料1-3 資料2-1 資料2-2 資料2-3</p>

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標

ウ 定められた学位授与基準、学位審査基準、成績評価基準を厳正に適用し、また不断に検証することによって、芸術系大学に相応しい教育の成果の測定指標を作成し、教育の質を保証する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>(7) 成績評価システムの総合的な検証を行い、公平性、透明性、厳格性が担保された成績評価を行うとともに、その検証システムを実質的に機能させる。</p> <p>〔質問・意見等〕 (再)「s評価の割合が適切な範囲内」とあるが、「適切な範囲」をどのように定義しているか。 また、シラバスの「成績評価」欄の記載内容は不十分ではないか。</p>	<p>(7) 引き続き、教務委員会を中心に、成績評価の在り方を検証し、シラバスの研究と見直しに努める。</p>	<p>○30年度入学者より、新たな単位認定の評価基準を導入した。具体的には、29年度以前の入学者は単位認定の最低到達点を50点としていたが、30年度入学者より最低到達点を60点とし、併せて、成績評価は、特に秀でた100点から90点の場合、成績表に「S」の表記をすることとした。導入初年度となる30年度は、特に「S」評価について適切に運用されるかを注視し、成績評価前の運用について周知を行った。</p> <p>○また、年度末の教務委員会で、受講者数に対する割合を定めた相対評価ではなく絶対評価とすることを確認し、その評価の状況を全専攻の教務委員に開示して、議論することにより、S評価の割合が適切な範囲内に収まっていることを検証し、31年度以降の運用方法について意見交換した。</p> <p>○シラバスの「成績評価」欄には、新設した「S」評価の基準を科目毎に明記することで、これまでの評価との違いについて学生への周知を図った。</p>	III		資料1-5 資料12 資料12-2

13

〔回答〕

新しく創設したS評価については、年度末の教務委員会で、受講者数に対する割合を定めた相対評価ではなく絶対評価とすることを確認し、その評価の状況を全専攻の教務委員に開示して、議論することにより、S評価の割合が適切な範囲内に収まっていることを検証し、31年度以降の運用方法について意見交換した。このように、一般的な相対評価における割合の定義ではなく、適切な範囲は教務委員の議論・検証により判断している。

また、シラバスの「成績評価」欄には、新設した「S」評価の基準を科目毎に明記することで、これまでの評価との違いについて学生への周知を図っており、不十分とは考えていない。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標

ウ 定められた学位授与基準、学位審査基準、成績評価基準を厳正に適用し、また不断に検証することによって、芸術系大学に相応しい教育の成果の測定指標を作成し、教育の質を保証する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>(イ) 教育成果を検証するため、芸術系大学としての本学の特性を調査研究し、その特性に応じた教育成果の検証を実施するとともに、教育成果の測定指標（アウトカム・アセスメント）を作成し、教育における内部質保証を行う。</p>	<p>(カ) 卒業時・修了時の学生アンケートを実施し、またアンケート結果を分析して、教育成果の検証を行い、授業改善に活用する。</p>	<p>○全学的に卒業生・修了生の意見を取り入れる仕組みを構築するため、卒業・修了の確定した全学生に対して大学教育全般についてのアンケートを実施し、結果をホームページで公開するとともに、自己点検・評価実施運営会議及び各科・専攻、一般教育等の教育研究組織において教育成果の検証を行った。例えば、アンケートのうち、就職活動、留学や進学、作家としての自立活動などに関して、学生自身が役に立ったと感じている大学の取り組みとしては、アーティスト講演会やワークショップと答えた学生が最も多く、こうした授業外での講演等が将来の進路を考えるうえで教育成果をあげている点を確認することが出来た。また、要望が多かったネットワーク環境の充実にも対応することとし、31年度に予算化した。</p>	<p>Ⅲ</p>		<p>資料17-1 資料17-2 資料17-3 資料17-4</p>

〔質問・意見等〕

アンケート結果をしっかり分析・検証し、学生の要望を授業改善のみならず教育環境の改善にも繋げた点はⅣ評価に値するか。



〔回答〕

本学においてⅢの評価とさせていただいたのは、アンケート結果の分析・検証に基づく教育環境の改善についてはこれまでも可能な範囲で取り組んできたものの、ネットワーク環境の充実に対応することは長年の懸案事項であったためであり、これをⅣ評価としていただけるのであれば大変有り難い。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標

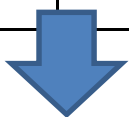
ア 学士課程教育にあつては、学部の教育目標及び各科・専攻の教育方針に基づき、教養教育と専門教育を行い、学位授与方針に定める汎用的な教養と専門的な造形力を修めた職業人を育成するとともに、学部を本学の教育拠点と位置づける。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>(イ) 教育成果を検証するため、芸術系大学としての本学の特性を調査研究し、その特性に応じた教育成果の検証を実施するとともに、教育成果の測定指標（アウトカム・アセスメント）を作成し、教育における内部質保証を行う。</p>	<p>(キ) 教育成果の検証を行うために、引き続きアウトカム・アセスメントの指標の策定を行う。</p>	<p>○卒業時に金沢21世紀美術館で卒業・修了制作展を開催し、DPの達成度を検証している。特に、美術科・工芸科の学生については、キャリア支援室設置要綱に基づき、学生の中長期的な支援を目的に、教育成果の測定指標として芸術活動の継続状況の検証を行った。具体的には、卯辰山工芸工房等で活動を継続する学生の把握に努めた。</p> <p>○加えて、美術科・工芸科の教育成果の測定指標として、学外での発表活動や公募展での受賞実績も重視しており、年度末には全学的なKANABIクリエイティブ賞顕彰事業を行っている。一方、デザイン科の教育成果の測定指標としては、一部上場をはじめとする企業への就職を重視しており、その就職率はデザイン3専攻でほぼ100%となっており、大きな成果をあげている。</p>	<p>Ⅲ</p>		<p>資料18</p>
<p>【質問・意見等】 「教育成果」と「学習成果」は違う性格のものとして記述していると考えてよいか。また、「学習成果」の測定指標の重要性を考慮する必要はないか。</p> <p>【回答】 この項目においては、中期計画と年度計画に基づき、「教育成果」の検証について表記をさせていただいた。ご指摘の通り、「教育成果」と「学習成果」は違うものと認識し、「学習成果」については項目番号「2」、「3」、「4」で記述している。学習成果については、単位修得状況や進級状況、授業アンケートや卒業生アンケートなどによる満足度や到達度の把握に努めており、測定指標の重要性についても十分認識しているが、美術系大学の特性に則した指標の設定については難しいこともあり今後の研究課題としたい。</p>					

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標	ア 教育拠点として位置づけられる学部教育、研究拠点として位置づけられる大学院教育において、それぞれの目標を達成するために必要な組織の見直しを行い、教員の適正配置を行う。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(7) 教員配置計画及び大学院改革に伴う組織改編に基づき、教員の適正配置、定数管理を行う。また、大学院指導教員資格基準に基づく資格審査を計画的に実施する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【質問・意見等】 何故評価がIVなのかを説明してほしい。 </div>	(イ) 大学院指導教員資格基準に基づき、大学院改革を視野に入れた指導資格審査を計画的に実施する。	○30年度新たに、大学院美術工芸研究科における教員指導資格審査基準に基づき、学外有識者を含む大学院指導資格審査会を立ち上げ、全教員に審査を受けることを課した上で、現行の修士課程及び博士後期課程における個々の教員の基礎判定を行った。その結果を基に教育研究審議会において内容を審査し指導資格を決定することで、大学院改革を視野に置いた指導体制の厳格化を図った。 【再掲15】 ○また、31年度採用予定者2名（芸術学専攻、一般教育等）についても教員指導資格審査基準に基づく審査を行い、採用を決定した。	IV		資料19-1 資料19-4



【回答】
 本学ではこれまで教員採用時に大学院指導資格を審査することを基本とし、採用後の指導資格更新は任意であったが、今回は大学院改革を視野に入れ、学外有識者を含む大学院指導資格審査会を立ち上げ、全教員に審査を受けることを課した上で、現行の修士課程及び博士後期課程における個々の教員の基礎判定を行った。その結果を基に教育研究審議会において内容を審査し指導資格を決定し、指導体制の厳格化を図ったことからIV評価とさせていただいた。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標 ア 教育拠点として位置づけられる学部教育、研究拠点として位置づけられる大学院教育において、それぞれの目標を達成するために必要な組織の見直しを行い、教員の適正配置を行う。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(イ) 学生による授業アンケートに基づく教員の授業改善計画書を作成、公開し、授業改善を推進する。 【質問・意見等】 授業改善計画書の作成・公表率が90%を超えていればIV評価に値するか。	(イ) 引き続き、授業アンケートに基づく教員の授業改善計画書の作成、公開を実施する。	○学生の授業アンケートを実施し、その集計結果の反映・改善について教員各自及び各科・専攻で検討後、授業改善計画書を作成し、学生目線での改善に結びつけることが出来た。例えば、版画の授業では腐食時の待ち時間を有効に使うための資料を準備する、デザインの授業ではデザインサンプルを充実させるなど、31年度に向けた具体的な対策が挙げられた。なお、授業改善計画書は、学生が自由に閲覧できるよう、事務局窓口で引き続き公開した。	Ⅲ		

25



【回答】
 学生の授業アンケートに基づく教員による授業改善計画書の公表率は100%であり、IV評価に値すると考えているが、作成率のご指摘の90%には届いていないことから本学においてはⅢ評価とさせていただきます。評価の変更については委員の皆様の判断にお任せしたい。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標	ア 教育拠点として位置づけられる学部教育、研究拠点として位置づけられる大学院教育において、それぞれの目標を達成するために必要な組織の見直しを行い、教員の適正配置を行う。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
	(ウ) 教務委員会、学生支援委員会、学生相談室及び事務局が連携し、また必要に応じて自己点検・評価実施運営会議等とも連携して、組織的な研修活動（FD・SD活動）を実施する。	○自己点検・評価実施運営会議が学生の授業アンケートを実施した。 ○教務委員会では、随時、休学者・退学者・留年者を含む 単位未修得者 について各科・専攻からの説明を求め、学生個々の状況の把握と共有化に努めた。また、教務委員会、学生支援委員会の合同会議を開催し、学生相談室、事務局も交えて、学生の実態と対応策を検討した。 ○新任教職員に対して、初任者研修を開催し、「学生との接し方」等について、学長及び担当職員から説明があった。 ○新任教員に対して学生相談室の場所と役割を周知するために、個別研修を行った。学生相談室担当からは5月に行った学生精神健康調査（UPI）の結果について、例年よりリスクの高い学生が多かったとの報告があったため、この状況を共有し、学生の動向を注意しながら見守っていくことにした。 ○その他11月8日には外部講師を招き、全教職員を対象に、通常の学生生活が心配される状態にある学生への対応の仕方について演習形式の研修や、2月21日には2回目の合同委員会を開催し、退学者及び休学者の状況の情報共有を図った。	Ⅲ		資料21-1 資料21-2 資料21-3 資料21-4

〔質問・意見等〕

新任以外の教員FDは弱くないか。大学設置基準が大幅改正されたことを受け、SDの充実化も図られたい。



〔回答〕

FDについては、研究不正防止研修会や全国学生相談研修会などに新任以外の教員も参加しており、不十分とは考えていない。
 SDについては、文部科学省主催の入試改革に伴う「大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会」や「高等教育の負担軽減方策に関する市町村との意見交換会」に職員を派遣し、専門的知識の向上や大学改革に向けた情報の収集に努めた。また、職員の年齢・経験年数、担当業務に応じ「自学自習」を中心とした研修計画のもと、自校研修から高等教育に関する知識まで、幅広い研修を行うなど充実化を図っている。（参考：資料78）

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (3) 学生への支援に関する目標

中期目標 イ メンタルヘルスを含む健康管理支援体制及び生活支援体制を継続的に検証し、充実させる。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(7) 学生のメンタルヘルス等について、全学的な啓発・相談・支援体制を検証し、さらなる活用を進める。	(4) 学生向けメンタルヘルス講習会を定期的を開催し、メンタルヘルス等の支援の充実を図る。	○29年度に続き、新入生を対象としたメンタルヘルス講習会を、外部講師（臨床心理士の寺井弘実氏）を 招聘して実施した 。なお、30年度は、29年度のアンケート結果を踏まえ、 講習会の開催 を課題が集中する11月から5月の開催に変更した。 ○更に、この講習会においてもアンケートを実施し、31年度は全新生が参加出来るよう 4月の ガイダンスに併せメンタルヘルス講習会を開催することを、学生支援委員会と教務委員会の合同会議において 日程変更 を決定した。	Ⅲ		資料21-1 資料25

34

【質問・意見等】

計画になかったアンケートを実施・検証し、次年度の事業改善に繋がった点はIV評価に値するか。



【回答】

本学においてⅢの評価とさせていただいたのは、29年度に実施したアンケート結果に基づき30年度のメンタルヘルス講習会の開催時期を変更したものであり、事業改善時期が30年度であるとの判断のもと、IV評価としていただけるのであれば大変有り難い。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (3) 学生への支援に関する目標

中期目標 イ メンタルヘルスを含む健康管理支援体制及び生活支援体制を継続的に検証し、充実させる。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(I) 学生代表と学生支援委員会教員等との意見交換を行い、学生支援の総合的な充実に役立てる。	(I) 学生の意見を直に聴取するために、学生代表と学生支援委員会教員、学生支援担当の教育研究審議会委員、教務学生担当理事等との意見交換会を実施する。	○学生自治会執行部と学生支援委員会教員、教育研究審議会委員、理事、学生相談室の学習支援アドバイザーによる意見交換会を2回実施した（7月20日、12月27日）。自治会が意見箱等を通して学生達から集めた要望を確認し、その対応策について意見交換を行った。 ○意見交換の結果を受けて30年度は、駐輪場の拡充、美大ホール前の外灯の増設、彫刻専攻教室内の空調設備設置などの環境改善を行った。 ○他大学との交流（五芸祭）、体育祭、美大祭など学生の自主的活動の支援を学生自治会の要望に応じ行った。	Ⅲ		資料28-1 資料28-2 資料28-3

〔質問・意見等〕

意見交換会を実施しただけでなく、そこで聴取した意見・要望を教育環境の改善等に繋げた点はⅣ評価に値するか。




〔回答〕

本学において評価をⅢとしたが、ご指摘の通り意見交換会を実施しただけではなく、そこで聴取した意見・要望から駐輪場の拡充や美大ホール前の外灯の増設、彫刻専攻教室内の空調設備設置を行っており、Ⅳ評価としていただけるのであれば大変有り難い。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標


中期目標 ア 芸術の分野において、地域の文化を振興し、また国際的な交流を促進する研究を行い、研究拠点を形成する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(7) 金沢をはじめとする地域文化について、本学独自の視点による高度な水準の研究に取り組み、その成果を公開する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <p>【質問・意見等】 何故評価がIVなのかを説明してほしい。</p> </div> 	(7) 「平成の百工比照」収集作成事業として、引き続き漆工・陶磁・染織・金工の各分野の収集・整理を進め、工芸技術記録映像を作成するとともに、金沢の地域文化の発展に資する教員の研究に取り組む。	<p>○金沢の地域文化の発展のためには、ものづくりにおける素材と技術、工程を学ぶ教育を充実させることが必要である。このため、本学の美術工芸研究所では「平成の百工比照収集事業」を実施している。</p> <p>○陶磁分野では、映像資料として4K画質による九谷焼の「色絵磁器」「赤絵細描」「赤地金彩」の三技法について技術記録映像を制作し、技術の保存・PRを行った。</p> <p>○また、美術工芸研究所ギャラリーにおいては、これまで同様、百工比照資料を常設展示し、学生や市民の自由な閲覧を可能とした他、これまでに制作した「漆」「染織」の技術記録映像の常時公開を行った。</p> <p>○更に、本学の教員や学芸員を中心に、百工比照の全国発信に向けての研究に取り組み、国立民族学博物館特別展「工芸継承 東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在展」において、百工比照資料を展示することで、全国に向け本学の取り組みを発信した他、市内においても同展の一部巡回展示やワークショップ、工芸交流会を行うことで、地域文化の研究水準の向上に大きく寄与することとなった。</p>	IV		資料5-1 資料41

【回答】
 4K画質による九谷焼技術記録映像の作成によって、伝承が危ぶまれる工芸技術を記録することは、全国的にも珍しい取組であり、大いに評価に値すると考えている。加えて、これまで学内や市内においてのみ展示を行ってきたが、30年度は国立民族学博物館特別展と連携し都心部において本学の所蔵品を展示したことは、地域文化の研究水準の向上に大きく寄与することとなった。こうした点から、本学ではIV評価とさせていただいた。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期目標 ア 芸術の分野において、地域の文化を振興し、また国際的な交流を促進する研究を行い、研究拠点を形成する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(イ) 本学の特色を活かして、芸術・文化等に関する国際的水準の研究に取り組み、その成果を公開する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>【質問・意見等】 何故評価がIVなのかを説明してほしい。</p> </div> 	(イ) 珠洲市との連携協定に基づいて、29年度に参加した奥能登国際芸術祭に引き続き、奥能登地域の特性や文化を踏まえた研究活動を継続的に行う。	<p>○豊かな自然環境と人情味あふれる民俗文化が残る奥能登地域の特色をアートで表現することを目的に、大学として金沢美術工芸大学アートプロジェクトチーム「スズプロ」を結成し、作品の制作を通して芸術文化の活性化による地方創生を目指した。</p> <p>○珠洲市との連携協定に基づき、奥能登国際芸術祭において制作したプロジェクト作品は、来場者数が総合2位であったこともあり、飯田地区の明治期に建てられた古民家での保存が決定した。文化財としての価値を有する古民家を活用しつつ、そこに歴史的記憶を現代アートで表現する研究が高く評価され、30年度は、この作品の更なるPRを目指し照明などの整備を行ったほか、定期的な特別公開により、国内外に対し美大の力を発信した。</p> <p>○この他にも、31年3月には奥能登国際芸術祭実行委員会及び金沢21世紀美術館との間で3者協定を締結し、更なる連携強化も図った他、大学では「奥能登国際芸術祭2020」を視野に教員個人や学生グループが奥能登地域の特性や文化を踏まえ、更なる教育の場の広がりや地元との相乗効果を目指す研究活動に繋がった。</p>	IV		資料42 資料43-1 資料43-2

【回答】
 奥能登国際芸術祭は基本的に国際的に活躍するアーティストが招聘される芸術祭である。その中で、唯一大学の学生グループとして参加が認められた「スズプロ」のプロジェクト作品の来場者数が総合2位となり保存され、文化財としての価値を有する古民家を活用しつつ、そこに歴史的記憶を現代アートで表現する研究が高く評価された。加えて、「奥能登国際芸術祭2020」を視野に本学が主導し奥能登国際芸術祭実行委員会及び金沢21世紀美術館との間で3者協定を締結し、更なる連携強化を図ったことはIV評価に値すると考えている。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期目標 ア 芸術の分野において、地域の文化を振興し、また国際的な交流を促進する研究を行い、研究拠点を形成する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>(イ) 本学の特色を活かして、芸術・文化等に関する国際的水準の研究に取り組み、その成果を公開する。</p> <p>〔質問・意見等〕 「国際的水準の研究活動」をどのように定義しているか。また、何故評価がIVなのかを説明してほしい。</p> <p>〔回答〕 国際シンポジウムで、芸術理論教育や工芸・デザイン教育で中国と韓国を牽引する清華大学美術学院、中国美術学院手工芸術学院、ソウル大学校美術大学デザイン学部から世界の第一線で活躍する研究者と作家による研究発表と討論を行ったことは、国際的に高い水準の研究を推進したものと考える。 また、このシンポジウムが連携した「東アジア文化都市2018金沢」は、日中韓文化大臣会合（日本は文部科学省）の合意に基づき開催されている事業であり、大学が単独でこれほど多彩な文化プログラムを実施したことは、極めて画期的なことである。こうした点を踏まえIV評価とさせていただいた。</p>	<p>(ウ) 大学の専門性を活かして、海外の作家・デザイナー・研究者と連携した国際的水準の研究活動を行う。30年度は、東アジア文化都市2018金沢との連携による研究を実施する。</p>	<p>○9月14日から11月4日まで、「アートベース石引」を会場に「日中韓・金沢美大博士人材・交流展」を開催した。展示の第1期は日本のクニト氏と堀至以氏が、第2期は中国の李カジ氏が、第3期は韓国の李イルヨル氏がそれぞれ作品展示を行い、日中韓相互の文化への理解を深めた。 ○これまで柳宗理デザイン研究所が行ってきた研究資料を、11月15日から25日まで、金沢21世紀美術館において「柳宗理デザイン くらしとかたち展」として初めて公開することで、現代に息づく製品デザインのベースを学ぶ機会を提供した。 ○11月18日に、金沢21世紀美術館において、中国から張夫他氏、関東海氏、周武氏を、韓国からソ・ドシク氏、ハン・カスン氏、チュ・ソワン氏を招聘し、日中韓・国際シンポジウム「工芸×くらし」を開催した。シンポジウムでは、本学教員とパネリストが、それぞれの国における工芸の意義と美術系大学の役割について発表し、今後の生活空間における工芸のあり方を議論した。芸術理論教育や工芸・デザイン教育で中国と韓国を牽引する清華大学美術学院、中国美術学院手工芸術学院、ソウル大学校美術大学デザイン学部から世界の第一線で活躍する研究者と作家による研究発表と討論を行い、これにより国際的に高い水準の研究を推進した。 ○更に、「日中韓・クラフト創造都市アーティストトーク in kanazawa」に工芸科の教員と学生が参加し、各国の工芸に関する理解を深める場とした。</p>	<p>IV</p>		<p>資料24-1 資料44 資料45 資料46</p>

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標 地域に根ざした公立大学として、社会との連携をさらに推進するとともに、教育研究の成果を積極的に社会に還元する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(イ) 小中学校、高等学校と連携して、芸術関連の効果的な教育研究や啓発活動を実施する。	(ケ) 高大連携推進事業として、地元の高校の生徒を対象に、本学教員による体験型の模擬授業を実施する。	<p>○30年度は新たに、高校生が大学で学ぶことの意味を理解し、はっきりとした目的意識を持って大学に進学するよう意識向上を図ることを目的とした高大連携推進事業に取り組んだ。</p> <p>○具体的には金沢市立工業高校と連携し、9月10日・11日・20日の3回に分けて、1年生194名が模擬授業に参加し、製品デザイン及び視覚デザインの教員から、美大の紹介、デザインについてのレクチャーを受け「身近な石で、自分の車をつくろう」をテーマに、用意された石に生徒が思い思いのデザインを描き、高校では学べない大学の専門的な学びに触れた。</p> <p>○終了後のアンケート結果を確認したところ、美大への興味や進学先として関心が寄せられており、美大進学への魅力を肌で感じてもらえることが出来た。また、制作された作品は、金沢市立工業高校でも展示され、参加していない2年、3年生からの関心も高く、今後の事業継続の必要性を認識した。</p> <p>○なお、31年度の新入生には同校からの入学者がおり、一定の成果も得られた。</p>	IV		資料62-1 資料62-2

【質問・意見等】
 何故評価がIVなのかを説明してほしい。

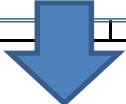


【回答】
 これまで本学の教員が高校に出向き指導することはあったが、30年度は初めて高大連携推進事業を立ち上げ地元の高校生に、美大において本学の学生と同じ授業を体験していただいた。当初の予想を大幅に上回る194名が参加したことや、参加した1年生の作品を高校内で展示したことで、2・3年生も刺激を受け、本学を志願し合格者も出たことはIV評価に値すると考えている。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (2) 国際化に関する目標

中期目標	海外の大学との交流など、学生や教員による国際交流事業を展開する。また、留学生を積極的に受け入れる。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(イ) 外国人留学生の受入れを拡大するため、受入体制、教育体制、環境等の検証を行う。 【質問・意見等】 「外国人工芸研修員」として受け入れた「教員3名・学生3名」の「研修」期間はどのくらいだったのか。「研修」の成果について、研修員の方々はどのような感想をお持ちだったか。	(I) 外国人工芸研修員の受入れを実施するとともに、改善を図る。	○30年度は、外国人工芸研修のため中国・清華大学美術学院の教員3名・学生3名を受け入れ、本学の美術工芸研究所ギャラリーにおいて「平成の百工比照」を用いた研修を実施し、東アジア文化都市2018金沢の一環として金沢21世紀美術館で開催した日中韓・国際シンポジウム「工芸×暮らし」に参加するとともに、金沢卯辰山工芸工房と金沢安江金箔工芸館の工房見学とギャラリートークを行った。 ○現行の外国人工芸研修員制度については、工芸研修に対する外国人留学生のニーズに応えるため、31年度から見直すことを教育研究審議会で決定した。	III		



【回答】

外国人工芸研修員として受け入れた教員3名・学生3名は、東アジア文化都市2018金沢の国際シンポジウムへの参加や、本学での工芸研修、卯辰山工芸工房や安江金箔工芸館でのレクチャーなど5日間の研修を行った。
 なお、この研修受講者からは、「金沢の工芸作家や研究者との交流を通して、日本の工芸技術の高さや若手の工芸家から人間国宝に至るまで裾野の広い人材育成に感銘を受けた。」との声が上がっていた。

業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

(1) 運営組織の改善に関する目標

中期目標

社会情勢の変化に迅速かつ的確に対応するとともに、自主自律した大学運営を行うため、理事長(学長)の指導力の下、教職員による柔軟で機動的な大学運営を行う。

中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(イ) 理事会、経営審議会、教育研究審議会の連携を密にし、学内運営の強化を図るとともに、教授会、研究科委員会を通じて教職員間の情報の共有化を推進する。	(イ) 学内組織の運営機能を強化するために、理事会、経営審議会、教育研究審議会の間で情報の共有化を図るとともに、大学運営のリスク管理に関する体制を整備し、管理を強化する。	○定例の理事会、経営審議会の開催時だけではなく、入学式・卒業式及び開学記念懇親会等にも理事会や経営審議会の外部委員を招き、教育研究審議会委員との 意見交換の場を設けることで、情報の共有化を図った。 ○30年度は、新たに内部統制規程の制定をはじめ内部監査規程及び情報セキュリティに関する規程等を策定し、大学運営のリスク管理に関する体制を強化した。 【再掲80】	Ⅲ Ⅳ		資料76

〔質問・意見等〕

各種事業に外部委員を招いた際の意見交換だけでは情報の共有化を図るには不十分ではないか。また、何故評価がⅣなのかを説明してほしい。



〔回答〕

意見交換の際には、資料を提示し、個々の委員から今後の学内運営における貴重なアドバイスをいただいております。またその情報を他の委員とも共有していることから不十分とのご指摘には当たらないと考えています。

30年度は、新たに内部統制規程の制定をはじめ内部監査規程及び情報セキュリティに関する規程等を策定し、大学運営のリスク管理に関する体制を強化したことから、Ⅳ評価に値すると考えていたが、項目番号80及び128と重複しておりご指摘を踏まえ、評価Ⅲに変更する。

業務運営の改善及び効率化に関する目標
2 事務等の効率化・合理化に関する目標

中期目標	法人の運営に資するため、事務等の適正な効率化及び合理化を行うとともに、労働環境の整備を図る。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(7) 事務処理の効率化・合理化を進め、かつ労働環境の整備を図るために、不断の検証、改善を実施する。	(4) 過重労働対策などの労働環境の改善・整備に取り組む。	<p>○31年1月に学割証明書の自動交付機を導入し、多くの学生が申請を行う証明発行時の職員の負担軽減を図った。導入によりこれまで職員が記入・押印等手作業で作成し発行に1~2日を要していたが、学生が自ら暗証番号を入力するだけで即時発行が可能となり労働環境の改善に繋がった。</p> <p>○衛生委員会を中心に、教職員の過重労働の課題等について意見交換を行い、31年度に向け業務分担を見直すなど労働環境改善の推進に取り組んだ。</p> <p>○29年度に引き続き、建物管理業務の一部を金沢市シルバー人材センターに委託し、職員の業務の軽減を図った。</p>	Ⅲ		資料75 資料81

【質問・意見等】

多方面から職員の業務負担の軽減が図られ、労働環境の改善に繋がった点はIV評価に値するか。



【回答】

学割証明書の自動交付機を導入したことは、他大学では珍しいことではないと考え評価Ⅲとした。ご指摘の通り、導入によりこれまで職員が記入・押印等手作業で作成し発行に1~2日を要していたが、学生が自ら暗証番号を入力するだけで即時発行が可能となり労働環境の改善に繋がっており、この他にも多方面から職員の業務負担の軽減を図られていることから、IV評価としていただけるのであれば大変有り難い。

財務内容の改善に関する目標
3 資産の運用管理の改善に関する目標

中期目標	資産の適正な管理を行うため、常に資産の状況について把握・分析を行い、効果的な活用を図る。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(イ) 大学が所有する美術品等について、ホームページを通じて所蔵品情報を公開し、貸出し等学外での有益な活用を推進する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>〔質問・意見等〕 何故評価がIVなのかを説明してほしい。</p> </div>	(イ) 所蔵品情報をホームページで公開するとともに、貸出し等により所蔵品の有益な活用を図る。	○30年度は、金沢市と連携し市庁舎を訪れた市民の方々に、芸術に親しんでもらうとともに、心を和ませる憩いと潤いの空間づくりを目指し、これまで本学が学生から買い上げた卒業・修了優秀作品の中から11点を恒久的に展示することで活用を図った。 ○ホームページ上の所蔵品データベースを通して本学の所有する美術品等の情報を広く一般に公開した。また、外部施設等20カ所に対して計85点を貸出し、所蔵品の有効活用にも努めた。 ○「平成の百工比照」を、収集以来初めて国立民族学博物館主催の特別展「工芸継承」に貸し出し、大都市圏において、本学の所蔵する全国的な工芸標本を展示公開することで、収集・研究の成果を強くアピールした。	IV		資料41 資料84 資料85

105

〔回答〕
市庁舎において発生した傷害事件をきっかけに、市長と協議を重ね、これまで本学が学生から買い上げた卒業・修了優秀作品の中から11点を恒久的に展示することで、市庁舎を訪れた市民の方々に芸術に親しんでもらうとともに、心を和ませる憩いと潤いの空間づくりを目指した。市庁舎を訪れた市民から好評を得ている他、本学にとっても所蔵作品の有効活用を図れたことからIV評価とさせていただいた。

その他業務運営に関する重要目標
4 人権擁護及び法令遵守に関する目標

中期目標 人権の尊重、知的財産の保護、研究倫理や法令遵守を徹底する。また、各種ハラスメント行為の発生を防止するための制度の充実・強化を図る。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(ウ) 研究倫理規定を策定し、また研究倫理を統括する組織を設置するとともに、不正を防止するための体制を整備する。	(キ) 個人情報の漏えいを防止するため、個人情報の保護に関する意識の向上を図るとともに、情報セキュリティポリシーの策定に着手する。	○30年度は、新たに内部統制規程の制定をはじめ内部監査規程及び情報セキュリティに関する規程等を策定し、大学運営のリスク管理に関する体制を強化した。 【再掲80、81】 ○学内における情報セキュリティを確保するために、組織的対策、人的対策、物理的対策、技術的対策の多方面からの安全管理措置を定め、責任者、管理者の体制構築を図った。	IV		資料76 資料96

128

〔質問・意見等〕

何故評価がIVなのかを説明してほしい。



〔回答〕

30年度は、新たに内部統制規程の制定をはじめ内部監査規程及び情報セキュリティに関する規程等を策定し、大学運営のリスク管理に関する体制を強化した他、学内における情報セキュリティを確保するために、組織的対策、人的対策、物理的対策、技術的対策の多方面からの安全管理措置を定め、責任者、管理者の体制構築を図った。これにより、教職員の意識改革も行われたことはIV評価に値すると考えている。